

熊本大学シラバス

基本情報

授業科目名	(日)	薬剤疫学特論
	(英)	Pharmacoepidemiology

時間割コード	06026	開講年次	3年次
学期		曜日・時限	
講義題目			
担当教官	入倉 充		
科目コード		科目分類	
選択／必修	選択必修	単位数	2

詳細情報

授業形態	学生間、あるいは教員と討議を行いながら、演習形式で実施する。
授業の目標	医薬品の開発における市販後調査の位置づけを把握する。市販後の薬剤の評価に用いられる薬剤疫学の研究デザインの方法を学び、臨床論文で用いられた研究手法を判別できるようになる。医薬品適正使用を実践できるようになるために、臨床論文から得られた結果をどのように臨床に反映させるべきか判断できるようになる。臨床研究を実施できるようになるために、薬剤疫学の研究手法を身につける。
授業の内容	<p>人の集団における薬物の使用とその効果や影響を明らかにするため、未知重篤な副作用の発見、有害事象を起こした症例の集積、自発報告、医薬品との因果関係の追及、短期の治療効果や長期予後の評価、費用対効果の解析、適正な調剤、適切な情報伝達について学び、医薬品の適正使用の確立について討議を交えて学ぶ講義形式の授業である。薬剤疫学の研究デザインを勘案しながら、臨床論文における実例を参考に学ぶ。</p> <p>どのような研究手法が使用されているのか、得られた結果はどのような患者に適応できるのか、発表と討議を通して理解を深めていく。</p> <p>1 回目：概論：方法としての疫学について学ぶ。臨床試験、コホート研究、ケース・コントロール研究、無作為化比較試験など</p> <p>2-8 回目：臨床論文を題材とし、『何を求めようとしてこの研究は実施されたか』、『研究はどのように進められたか』、『どのような成績であったか』、『結果をどのように評価するか』について各自が発表する。発表内容に基づき学生間、および教員を含め、研究の妥当性、リミテーション、適応できる患者群、および問題点などについて討議する。</p> <p>疫学の研究手法や基本的な用語については1回目の講義で説明するが、2回目以降も討議の合間などに必要に応じて解説をする。</p>
キーワード	医薬品の市販後調査、症例報告、症例集積研究、横断研究、ケース・コントロール研究、コホート研究、無作為化比較試験、バイアス、交絡因子
テキスト	使用しない、授業中に資料を配付する
参考文献	実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩(監修:くすりの適正使用協議会、編集:藤田利治、出版:レーダー出版センター)、薬剤疫学(Brian L. Strom, 監訳:清水直容、楠 正、藤田利治、野嶋豊、出版:篠原出版)
評価方法・基準	出席状況(20点)、課題レポートと課題発表(50点)及び討議への参加状況(30点)から評価します。
履修上の指導	薬剤疫学に関する臨床報告を題材にして、学生が発表し、討議することにより進めるので、積極的に参加し、発言することが求められる。
事前学習	疫学の研究手法について予め調べておく。症例報告、症例集積研究、横断研究、ケース・コントロール研究、コホート研究、無作為化比較試験、バイアス、交絡因子など。
事後学習	自らの研究に関連のあるもの、あるいは興味のある臨床論文を読み、使用されている研究手法を判別するとともに、得られた結果がどのように臨床応用できるか、討議する。